

## 墓石の総合卸売商社という枠を超え、 「石材店のために何ができるか」を考えた新製品を開発

北海道を拠点に、全国の石材店へオリジナルのデザイン墓石を提供する株式会社皇潤貿易（本社：北海道札幌市／赤澤実社長）。一般ユーザーのニーズに沿った付加価値の高いデザイン墓石は、お墓離れを危惧する声が日に日に高まる現在も本州での需要を牽引している。

「石材店のために何ができるかを常に考えている」という赤澤社長に、同社の歴史や製品に対する考え方、そしてこれからリリースを予定している新たなデザイン墓石についてお話を伺った。

### 質の高い素材に卓越したデザインを掛け合わせ、墓石の付加価値を高める

同社の設立は2006年だが、赤澤氏の業界歴は22年と長い。

「若い頃はさまざまな仕事をしましたが、29歳のときに大手石材商社に転職し、これだ、と感じました。そのまま3年間経験を積んだ後、独立して最初の会社を立ち上げたのが31歳のときです。しばらくして同業者と会社統合をしたものの、経営方針の違いから袂を分かち、新たに株式会社皇潤貿易を立ち上げました」

創業当初から、墓石製品の輸入・卸売と並行してデザイン墓石の開発・製作に注力し、時代のニーズを確実に反映した付加価値の高い墓石として高く評価されてきた。「デザイン墓石に新しい風を吹かせたい」という思いで開発された「エタニティー」「ル・シエル」シリーズはその一例だ。緩やかな曲線美が美しい竿石と、全体的に横に広い形が特徴で、近年増えつつあるワイドバージョンの洋型墓石の先駆けとあっていいだろう。縦に長い従来の墓石に比べて石材店は施工しやすく、購入者は手入れがしやすい。釧路沖の地震で被害が出た経験から、耐震性を重んじて安定感にも配慮したつくりだ。

「常に建立者の視点で開発していますので、どういふものを作れば売れるのか、何が求められているのかということが経験則でわかるようになりました。テーマが決まれば、それに沿ってデザインを組

み立てていきます」

同社の墓石デザインは、創業以来ずっと赤澤氏自身が手がけている。今もなお、全てのデザインをフリーデッサンから一人で書き起こしているそうだ。

「初めてデザインをしたのは今から20年程前で、デザイン墓石はまだ先駆けの時代でしたから、当時はデザイン墓石が飛ぶように売れました。独立後もまだ世の中にない新しい価値を提供したいと考えて製品を企画・開発しています。石が悪いとデザインも損なわれますから、品質にもこだわってきました。独立してすぐ単身中国に渡って開拓した取引先とは今でも長いお付き合いが続いているので、信頼関係に基づいて質の高い製品だけを輸入できているのが強みの一つですね」

### 総合卸商社の枠にとどまらず、 石材業界全体の活性化に力を尽くす

同社の本社横には、お墓の建立を検討している一般の人に向けた墓石展示場「やすらぎの杜」がある。「一生に一度のお墓づくりの前に、実際に墓石を見て、触れて、感じてほしい」という思いで開設されたものだ。場内には、石の耐久性や種類、材質、施工の手順などを紹介する専任のスタッフが常駐し、無料でさまざまなアドバイスをするだけでなく、墓石を購入したいというニーズがあれば加盟店につないでいる。

新製品のデザインラインナップ一例



「こうした形で一般ユーザーに展示場を解放し、石材店に紹介する形を取っている会社は、北海道では当社だけだと思います。2013年の開設以来、来場者数は順調に増えており、北海道に限らず、時には本州への加盟店にも順次ご紹介することができています。石材の需要を喚起し、石材業界の活性化につなげていければいいですね」

さらに、石材に関わる職人が減少の一途を辿っていることから、職人不足で字彫彫刻が困難になった場合に備えて、一昨年には自社内に字彫りの機械やゴム切りの機械を導入。いずれは自社内で一貫して行える体制を整え、人手不足に悩む石材店をサポートしていきたいとしている。

**「先祖供養」に意識が戻りつつある今、  
「個人墓」という新たな文化を確立したい**

時代を先取りした企画と、墓石の総合卸売商社という枠を超えた取り組みで存在感を放つ同社が新たに開発したのが、関東のガラス工房とタイアップしたモダン調のデザイン墓だ。

もともと同社には、米国デザイナーのランドグレン氏が制作する、世界で唯一のアートガラスを取り入れた製品「ジュエル」がある。オリジナリティあ



安定感があり、手入れがしやすいのも特徴だ

ふれるデザインにさまざまな色ガラスを組み合わせることによって、墓石の付加価値をより高めた逸品だ。これまでの墓石にない輝きが若年層に受け、客層ががらりと変わったと赤澤氏は話す。新たな埋葬形態が続々と登場するなかでも、消費者が石のお墓に価値を感じれば購入するという好例だろう。

今回の新製品は、代々墓を解体したり撤去したりする「墓じまい」を経て、合祀墓に入る人が増えていることを受けて提案したものだ。

「合祀墓を選択する人を個人墓に誘導することによって、石材店の仕事が増えるのではないかと考えたのです。日本は代々墓が一般的で、個人墓はあま

り浸透していません。しかし、お墓の継承者がいないなど代々墓という文化に限界を感じて合祀墓を選ぶ人は、管理面の不安さえ払しょくできれば個人墓に魅力を感じてくれるのではないのでしょうか。新しい製品には、後見人制度のような形で石材店と生前契約を結び、管理を託すようなシステムを付与して購入者の安心につなげたいと思っています」

新製品は、3月中に6～7種類のデザインを揃えて販売をスタートする。製品の独自性をさらに高めるため、翼をモチーフとした新しいデザインも開発中だ。

「私自身の感覚としては、全体的には少



翼をモチーフにした新デザインイメージ

しずつ石のお墓に人が戻ってきているように感じています。墓離れから先祖供養へと、一般の人たちの意識が変わってきているのではないのでしょうか。今こそ、石材店のために何ができるかを考えて製品を企画・開発していくときだと思っています」

同社では、新デザイン墓石の完成に伴って、加盟店を募集している。詳しい情報は下記にお問い合わせいただくか、同社ホームページ <http://kohjun.com/company/> でご確認いただきたい。

<問い合わせ先>

株式会社皇潤貿易

【本社】

〒005-0850 札幌市南区石山東5丁目7-2

TEL:011-593-8888 FAX:011-593-1818

フリーダイヤル：0210-73-6868



## 第10回お墓ディレクター資格更新のお知らせ

「お墓ディレクター資格」の有効期間は5年です。

- ①第10回検定試験(2013年1月23日実施)において資格取得された方(認定番号が12ーで始まる方)は今年が1回目の更新年度となります。
- ②第5回検定試験(2008年2月6日実施)において資格取得された方(認定番号が07ーで始まる方)は今年が2回目の更新年度となります。

更新申請期限  
2018年  
3月31日(土)  
※当日消印有効

- 更新申請期限：2018年3月31日(土)※当日消印有効  
(期限を過ぎたものは受け付けられません)
- 更新費用：3,000円
- 提出書類：更新申請書 写真・郵便振替払込受付証明書を貼付

※更新されない場合は資格失効となり、お墓ディレクターを称することが出来ません。  
救済措置はございませんので、ご注意ください。

※更新対象の方でお手元に必要書類が届いていない、またはご不明な点等がある際は石産協事務局  
03-3251-7671までご連絡ください。

一般社団法人  
**日本石材産業協会**  
The Japan Stone Industry Association

〒101-0046 東京都千代田区神田多町2-9日計ビル2F  
TEL:03-3251-7671 FAX:03-3251-7681  
<http://www.japan-stone.org/>